

with コロナ時代を、よりたくましく！

CHUO TOPICS

盛岡中央高等学校

岩手県盛岡市みたけ4丁目 26-1

TEL 019-641-0458 <http://www.chuo-hs.jp>

盛岡中央高等学校附属中学校

岩手県盛岡市みたけ4丁目 26-8

TEL 019-641-0505 <http://www.chuo-jhs.jp>

〈小学4・5・6年生、中学生の皆さんへ〉

2021
新春号

Society 5.0に向かって確かな一歩！ 新たな社会をリードするCHUO生たち！



●SZコース
大原 雄 (下小路中出身)

同志社大学政策学部合格

●Zコース
石母田 鈴 (胆沢中出身)

津田塾大学学芸学部合格

●Zコース
工藤 ひかる (西根中出身)

東京都立大学
健康福祉学部合格

●SZコース
鎌田 朋乃加 (岩大附属中出身)

東京学芸大学教育学部合格

●Aコース
佐々木 昂大 (北陵中出身)

岩手県立大学
ソフトウェア情報学部合格

令和2年度 大学入試合格速報 (令和2年12月22日現在)

国公立大学 17名

東京学芸大学 (1名)・東京都立大学 (1名)
富山大学 (1名)・岩手大学 (8名)
岩手県立大学 (6名)

私立大学 48名

慶応義塾大学 (1名)・同志社大学 (1名)
津田塾大学 (1名)・駒澤大学 (1名)
神田外語大学 (2名)・東京農業大学 (2名) ほか

高校

中学校

- 祝合格！志望大学合格の朗報 令和2年度 大学入試合格速報・続々判明中！
- オーストラリア一年間留学 帰国第一報！／世界遺産出前授業 開催
- 中国山西省澤州県第一中学校との交流／Never Stop Learning & こっちに鯉
- Co-Teaching を学力向上・授業改革の切り札に／アラカルト式冬季講習 実施！
- パブリック・ディベートコンテストに参加します／「卒論発表会」Coming Soon!
- 1学年 第1回キャリア教育講話／Academic Lectureファイナル開催
- 「春のトモノカイ」Zoom 開催！／「The Japan News」で英語の感性を磨こう！
- 小・中学生、保護者の皆さんへ メッセージ



第21回CHUO国際教育フォーラムの様子
2019年8月31日／盛岡市民文化ホール
(マリオス)にて

イノベティブなグローバル人材を目指そう!

令和2年度 大学合格速報 (12月22日現在)

祝合格! 志望大学合格の夢を叶えたCHUO生!

第23回神奈川大学全国高校生俳句大賞に本校Zコース2年の生徒、津志田萌さんの作品(車窓より臨む朝霧五能線)が見事入選しました。全13、800通の中から入選は65句のみの快挙です。

Message ~合格の花を咲かせた先輩からのメッセージ~

富山大学 芸術文化学部
芸術文化学科
SZコース
相田 優衣 豊石中学校出身

入試で必須の面接は苦手だったので、面接練習の様子を録画・録音して自身を客観視し、練習して上達することができました。

慶応義塾大学 商学部
商学科
Zコース
菅原 花梨 東水沢中学校出身

1年生の定期考査から3年間、自分を追い込み勉学に励みました。多くの先生からご指導を頂き、本当にありがとうございました。

東京都立大学 健康福祉学部
作業療法学科
Zコース
工藤 ひかる 西根中学校出身

多くの先生方に面接練習をしていただき、色々なパターンの質問内容に答える経験を多く積めたことが合格に繋がったと思います。

同志社大学 政策学部
SZコース
大原 雄 下小路中学校出身

社会をより良くしていくためにどうすればよいか、今起きている社会問題を分析しながら、大学でしっかり学んでいます。

岩手大学 農学部
水産学科
SZコース
吉野 路悠 大宮中学校出身

学校のサポートがとても手厚く、先生方のアドバイスを有効に使うことができたので、合格することができました。

津田塾大学 学芸学部
英語英文学科
Zコース
石母田 鈴 胆沢中学校出身

自分が好きでやりたいことを突き詰め、一生懸命頑張ったと胸を張って言えるものを作れたことが私にとって一番の受験勉強でした。

岩手大学 理工学部
化学・生命理工学科化学コース
Zコース
高峯 知哉 厨川中学校出身

合格だけではなく、面接で示した成し遂げたい目標を達成するため、また卒業生として恥じることがないように今後も頑張ります。

駒澤大学 法学部
法律学科 フレックスA
Zコース
浦上 青花 北陵中学校出身

自己推薦書も面接も小論文も、先生方に親身になっていただき、何度も練習と添削をしていただいたことで合格できました。

岩手県立大学 ソフトウェア情報学部
ソフトウェア情報学科
Aコース
佐々木 昂大 北陵中学校出身

志望理由書の添削、受験科目への取り組み方など、先生方の多くのサポートがあって合格できました。ありがとうございました。

順天堂大学 保健医療学部
診療放射線学科
Zコース
小野寺 夏帆 城西中学校出身

勉強だけでなく、部活動やボランティア活動、国際交流など様々なことに挑戦し、自分だけの強みをもつことで合格できたと感じました。

国家公務員Ⅲ種・防衛省内定
SZコース
晴山 海璃 岩大附属中学校出身

先生方と何度も面接練習をすることで、本番当日はほぼ完璧といえる受け答えができ、受験したすべてに合格することができました。

明治薬科大学 薬学部
生命創薬学科
Zコース
小坂 陽美 滝沢第二中学校出身

生活にメリハリをつけて無理を続かなかったこと、先生にたくさん頼って解説してもらったことが合格できた秘訣です。

国公立大学 17名

- 東京学芸大学 1名
- 東京都立大学 1名
- 富山大学 1名・岩手大学 8名
- 岩手県立大学 6名

私立大学 48名

- 慶応義塾大学 1名
- 同志社大学 1名
- 津田塾大学 1名
- 駒澤大学 1名
- 神田外語大学 2名
- 東京農業大学 2名
- 明治薬科大学 1名
- 北里大学 1名他



目標への道筋

私はこの度、東京学芸大学に学校推薦型選抜で合格することができました。私の合格への道筋を支えてくれた家族、友達、先生方、本当にありがとうございました。

私が教員養成系の大学に進学を考えたのは、小学校高学年の時でした。小学校教員になりたいという思いから、中学校では教育系の大学を調べ、高校入学時には東京学芸大学を第一志望に据えました。中央高校に在学中は国際交流に注力し、三年間のうちに三ヶ国へ行かせていただきました。特に、一年次のアルゼンチン姉妹校派遣で訪れた現地の日本語学校での指導に感銘を受け、日本語教育に興味を持つようになりました。

帰国して調べてみると東京学芸大学には日本語教育が学べる特徴的なコースがあると知り、このとき私は東京学芸大学への志望を漠然とした憧れから現実の目標として考えるようになりました。

実際に推薦入試対策を始めたのは三年生の10月になってからでした。東京学芸大学の推薦入試は、小論文・面接ともに学校教育関連のことが出題される傾向に

あることを教えていただき、推薦入試対策を本格的に始めました。小論文は2日から3日に1つ書いて添削指導を受け、面接練習は1週間に1回の指導を受けましたが、入試が近くなると毎日のように練習、指導をしていただきました。最初は全く知識が足りず、書けない、答えられないの連続でした。しかし、分からないところは積極的に担当の先生に尋ね、自分でも文部科学省のホームページから情報を得たり、教員採用試験対策の本を読み続けることで徐々に書いたり、答えられたりするようになっていきました。

もちろん、入試開始直前まで不安が尽きることはありませんでした。入試が終わった後も、合格発表のその時まで「あれはこう答えた方が良かったんじゃないか」という思いが付き纏い、後悔の念でいっぱいでした。

結果は合格でした。なぜ合格できたのかは自分でもいまだに明白ではありませんが、そのうちの1つは自分の合格への道筋が明瞭であったことが挙げられると感じています。将来に向けて少しでも得られるものがあると思うなら、挑戦してみることが重要です。それが将来に向けての基礎固めになり目標への近道や明白な道が見えるようになると思います。

私はこの度、東京学芸大学に学校推薦型選抜で合格することができました。私の合格への道筋を支えてくれた家族、友達、先生方、本当にありがとうございました。

SZコース 鎌田朋乃加さん (岩手大学附属中学校出身)



CHUOで「生きる力」を育む

大学の総合型(旧AO)・学校推薦型選抜は、志望理由書や学びの意図、面接やグループディスカッション、小論文や総合思考力問題など、様々な方法で多面的に個人を評価する入試です。大学は一般選抜よりもはるかに長い時間と労力をかけて合格者を選抜します。単なる「芸入試」ではありません。

総合型・推薦型選抜に合格した生徒は、授業を通じて知識・技能を養い、本校の国際交流活動や探求活動(SGH:SSP)に積極的に取り組み、思考力や表現力、国際性や協働性を培っています。さらに自分が興味を持った外部講座やボランティア活動にも、学校の枠組みにとらわれず参加するなど、主体性を持って自分なりの進路目標を見つけています。3年間の学校生活で実社会でも通用する「生きる力」を育むそれがCHUOの強みです。(進路指導課長/佐々木恵先生)

CHUO NEWS 第23回神奈川大学全国高校生俳句大賞 投句作品(兄弟のやうに手繋ぐオリオン座) 津志田萌(2年Zコース・西根第中学校出身)



第22回CHUO国際教育フォーラム、8月27日(金)に開催!



第21回CHUO国際教育フォーラム・フィナーレの様子 (盛岡駅前マリオス大ホール 2019.8.31)

2019年の第21回CHUO国際教育フォーラムは、中央高校・附属中学校全校生徒のほか、海外15の国と地域から約74名が参加しました。CHUOが推進してきたグローバル・リーダー育成プログラムのビッグイベントとして、1999年から毎年10カ国以上の高校生や中学生が一堂に集います。CHUOはイノベティブな人材の育成を目指しています。あなたもCHUO生の一人として参加してみませんか。



26校目の姉妹校! 中国山西省 澤州県第一中学校をフォーラムに招待へ

● **澤州第一中学校からのビデオレター**
新型コロナウイルス流行により相互交流が延期される中、9月28日に同校からビデオレターが届きました。同校や澤州県の雄大な自然の紹介、常校長のメッセージのほか、終盤には生徒による「出入相友、守望相助」(出典 孟子・滕文公上)の呼びかけシーンが映され圧巻でした。
現在龍澤学館では返礼のビデオレターを撮影・制作中。生徒からの友好メッセージが満載される予定です。

● **友好学校協力意向書への調印**
同日、高喜全訪問団団長、千葉研二盛岡中央高校校長の立ち合中、常春燕校長と龍澤正美龍澤学館理事長が「友好学校協力意向書」に調印し、双方協力し教育交流を推進することを約束。調印後、常春燕校長は「二校の交流を両校の生徒の大きな成長に役立てていくことを切望する」と述べました。

● **交流の始まり**
盛岡市や岩手県は中国山西省と30年以上にわたり国際親善交流を重ねてきました。令和元年8月31日、山西省人民政府の紹介で晋城市澤州県の訪問団6名が谷藤裕明盛岡市長を表敬訪問。一行は同日行われた第21回CHUO国際教育フォーラムを見学しました。常春燕澤州県第一中学校校長は大いに感動して、盛岡中央高校との教育交流が開始されました。



澤州県第一中学校(生徒数2,500名)より送られたビデオレター。現在、CHUOの「返礼用ビデオレター」を鋭意制作中です。

CHUO国際教育フォーラム代替プロジェクト Never Stop Learning & こっちに鯉

◆ **こっちに鯉**
このプロジェクトは、中央高校の生徒が全28校の錦鯉を作り、アルゼンチン・ニュージーランドをはじめとした世界五大大陸25校の各姉妹校に送るものです。本校生徒がクラスごとに紙の錦鯉の下絵に色を塗って、姉妹校へ手紙を書き写真とともに送りまし。姉妹校側からは姉妹校に「渡航」したコイたちとともに写真を撮って送ってくれています。フォーラムに海外姉妹校の生徒の皆さんを招待できる日が早く来ることを祈っています。



▲イギリス姉妹校 Impington Village Collegeから届いたロンドンの二階建てバスと「コイ」の写真

◆ **Never Stop Learning**
世界各国の姉妹校がコロナ禍でオンライン授業や時間差登校などで工夫をしながら、学びを止めないために頑張っています。その様子が姉妹校からビデオで届いています。そのうちの一つをご覧ください。



▲インドネシア SMA Dwiwarna高校からのメッセージ動画を見てみよう!

オーストラリア一年間留学 帰国第一報!

令和2年1月より、オーストラリア・シドニーへ一年間留学していた長沼翔也君(進学留学Rコース2年生)が、令和2年12月5日に帰国しました。長沼君の留学体験レポート第一報を皆さんにお届けします。地域を支える人材になりましょう!

“have a go”の精神で挑戦し続けたい

進学留学Rコース 長沼翔也



▲オーストラリアの学生たちと日本からの留学生で楽しく野外活動で交流しました



▲最高の体験と1年留学の修了証を頂いて、留学は終了しました

本当にあつという間に約一年間の留学生活が終了しました。振り返ってみれば、コロナウイルスの感染拡大によってSOPA(Season Of Performing Arts)やキャンベラ旅行などの様々なイベントが中止となり、一時はロックダウンによって学校や外に出られず、遠隔授業を余儀なくされる事もありました。しかし、最後までこの留学を続けることができたのは、ICETの原田房枝先生をはじめとする現地の先生方、ホストファミリーに日本の先生方や家族、そして同じ境遇で互いに切磋琢磨し合ったICETの仲間達が支えてくれたからこそだと思います。本当にありがとうございました。

この留学で学んできた事を活かして、これからの人生“have a go”(何にでもチャレンジする)の精神で挑戦し続けたいと思います。中央高校の先生方には、これからも御指導のほどよろしくお願い致します。留学の体験を活かして今後も充実した高校生活を送れるよう、職員一同応援しています!(CHUO入試広報室)

岩手県知事・達増拓也氏による世界遺産出前授業開催

令和2年10月1日

10月1日に1年SZコース、Zコースを対象に、達増拓也岩手県知事による「世界遺産出前授業」が実施され、グローバルな社会課題の勉強をしました。岩手を愛し誇りを持った児童・生徒を育成することを目的とした当授業。県内の世界遺産である「橋野鉄鉱山」における「明治日本の産業革命遺産」の価値を伝えることにより、児童・生徒の郷土の歴史や文化等に対する理解を深め、併せて、本県の世界遺産を次世代に継承することについて意識醸成を図るというものです。

実際の授業では、クイズ形式で江戸時代の盛岡藩の石高の全国順位(21位)や製鉄方法の名称(たたら製鉄)などについて考えました。橋野鉄鉱山から「官営八幡製鉄所」へ製鉄の技術が伝承され、釜石、岩手が日本の近代化に欠かせない存在だったことなど、当時の岩手県の意外な先進性を知ることが出来ました。授業終了後、代表生徒は「岩手の文化遺産の価値を理解できた。それを私たちが守って伝えていかなければならない」と感想を述べました。CHUO生たちは、自信と誇りを持って世界に羽ばたくことでしよう。



▲龍澤正美理事長(右)、千葉研二校長(左)と



▲生徒からも積極的に質問が出されました



▲スクリーンを使って説明する達増氏



講義する小松先生

東京海洋大学教授の小松俊明先生による「Academic Lecture」は、主に世界で起きている問題をテーマとして全4回で行われ、12月5日(土)に最終

回を迎えました。最終回を終えたのち、生徒からは「対話形式で進む授業がとても楽しかった」「教科の授業以外の大切なことを学ぶことができた」「進路について考えるきっかけになった」などの感想が聞かれました。

小松先生の講義は生徒との対話形式で行われます。積極的に発言をする中で、生徒一人一人に「気づき」が生まれ、全体の学びが深まることを学習しました。



第2回の講師はパティシエの高橋さん

キャリア教育講話は、1学年生徒対象で様々な立場の方々の生き方・考え方を学び、自分自身の進路・将来就きたい仕事について考えるきっかけとする「ことを目的として、オンラインツールを用いながらリモート型で実施しています。11月21日(土)は農林水産省職員でアメリカのウィスコンシン大学マディソン

校に留学中の東京大学卒業の西元哲生(にしもとてつむぎ)さんに、インタビュー形式で様々な質問にお答え頂きました。今の仕事を選んだきっかけや、仕事のやりがいの他、生徒からの質問にあった「種苗法」についてなど、分かりやすく説明してくださいました。現在の仕事に就くまで、また、仕事に就いてからも様々なことに悩み、考えながら、前向きに生きていく西元さんがとても印象的でした。

第2回キャリア教育講話は3学期に行う予定で、パティシエの方からお話を伺います。講師は北上市のアトリエ KUKU オーナーシェフ 高橋陽(たかはし ひろ)さんです。

Academic Lecture ファイナル開催 令和2年12月5日

1学年第1回キャリア教育講話 令和2年11月21日



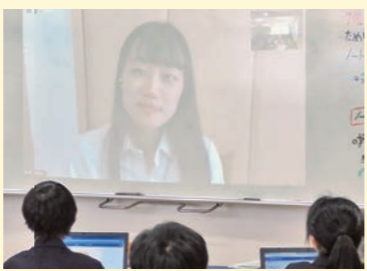
ロビーでいつでも閲覧できます



ロビーで英語にチャレンジ

ロビーに読売新聞社から英字新聞が毎日届きます。日本のニュースを英語で読める日刊の英字新聞です。日本での出来事を記事に扱っているため、全ての英文を理解することは難しいのですが、Lead(リード)を読むだけで、大まかに内容を理解することが出来ます。このリードに「SWTH」のほぼ全てが含まれているからです。英字新聞のHeadline(見出し)は通常の英文法ルールと異なる書き方をしているのので注意が必要です。英語科からは新聞を利用して翻訳してみようという問題が出されています。ぜひ、ニュースの英訳に挑戦して英語の感性を磨きあげましょう。

「The Japan News」で英語の感性を磨こう!



秋のトモノカイの様子

本校では年2回、(株)トモノカイと連携して東大や京大に通う大学生による学習メニュープログラムを実施しています。今年度2回目となる「春のトモノカイ」では、中学生に人生の「少し先」を歩く大学生の経験・価値観に触れてもらい、自分の未来について考える機会を提供します。

秋のトモノカイに引き続き、オンラインツールによるZoomによるリモート開催で企画準備中です。現在、東京大学や京都大学など最難関大学に通っている学生の生の声を聞くことで、ワクワクする未来を創り出すきっかけとてくれるでしょう。

「春のトモノカイ」Zoom開催! 令和3年2月6日

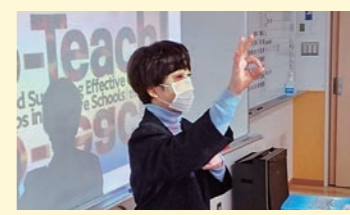


▲数学幾何の様子

今年度の冬期講習は「学年」という「タテ」の壁を取り払うという画期的なスタイルで実施します。また、従来の英数の基礎・応用型の講座に加え、「論理トレーニング」「社会科学動画制作演習」「日本語運用術」

「発展力学」など、何と全部で27講座が立ち上がりました。この多種多様な講座の設定は「教科の学び」という「縦」の射程を広くしたもので、そこに本校教師集団の「生徒を力強く羽ばたかせる」という意欲がみぎざついていると自負しています。そして、生徒はそれらの講座から自ら選んで自分のカリキュラムを作成することで、主体的に学ば力を育てていくことも視野に入れていきます。

主体的に学ば力を育てる アラカルト式冬期講習 実施!



▲助言いただいた松田一子先生



▲学びを深める生徒たち

Co-Teachingとは、教育のプロフェッショナル同士が教育指導上のパートナーシップを組んで行う教授法で、日本ではほとんど知られていませんが、アメリカや欧米ではスタンダード化されています。本校では、日本におけるCo-Teachingの第一人者の松田一子先生を助言者にお呼びしながら、3学期より1・2年生2クラスでチャレンジすることが決まりました。12月から毎週金曜日の数学の授業で実施していきます。

Co-Teachingの実施を通して、生徒個々の強みと弱みを見極め、個に応じたよりよいカリキュラムを提供するとともに、教師集団の授業力向上のチャンスにしていきたいと考えています。

Co-Teachingを 学力向上・授業改革の切り札に

子ども達の深い学びを求めて、よりよいカリキュラム・授業を模索し続けるCHUO附中のチャレンジを、皆さんにご紹介します。



令和元年度 コンテストに参加した生徒たち



本校は東北経済産業局が主催している、省エネ政策提案型パブリック・ディベートコンテストに参加しています。本コンテストでは資源・エネルギー・環境問題への理解促進や省エネルギーの普及啓発及び情報提供を行うため、東北全域の中学生・高校生を対象に、省エネルギー等をテーマにした「政策提案型パブリック・ディベート」が展開されています。

令和2年度のテーマは「withコロナのための『新しい生活様式』を實踐し、命と健康を守りながら持続可能な社会を目指すためには、どのような省エネ政策が効果的か」という内容です。

令和3年1月10日開催のコンテストに向けて、生徒たちは政策の考案や発表練習など、今年度は2年生7名で着々と準備を進めています。

東北経済産業局主催 パブリック・ディベートコンテストに参加します

各自が興味を持っていくテーマについて「調べ学習」を行い、卒業研究論文を作成します。調べていくことで、新しい発見や課題に気づく生徒も多く、論文を書いていく過程で自分の考えや見方をアップデートしている姿が見られます。発表会では、司会や計時係といった役割を2年生が行い、3年生の発表を支えてもらう予定です。

約1年かけて探究してきた卒業論文は、生徒たちにとってかけがえのない財産となるに違いありません。

「卒業発表会」Coming Soon! 令和3年3月6日



調べ学習 (イメージ)

盛岡中央高等学校附属中学校では、3年間の探究学習の集大成として、各自が興味を持っていくテーマについて「調べ学習」を行い、卒業研究論文を作成します。調べていくことで、新しい発見や課題に気づく生徒も多く、論文を書いていく過程で自分の考えや見方をアップデートしている姿が見られます。発表会では、司会や計時係といった役割を2年生が行い、3年生の発表を支えてもらう予定です。

約1年かけて探究してきた卒業論文は、生徒たちにとってかけがえのない財産となるに違いありません。



中高一貫6カ年教育のメリット

CHUO特別教育顧問 佐藤 光一 先生

— こ数年、中高一貫教育に注目が集まっています。その一因に、中高一貫校の大学進学実績の躍進が上げられるでしょう。なぜ進学実績が向上しているのでしょうか？その理由のひとつに教育課程の編成があります。生徒の進学希望に合わせた6カ年を見据えた授業計画が立てられるということです。また、6年を2年毎に分け、中1と中2、中3と高1、高2と高3をセットにして授業を計画することも可能です。教科によっては柔軟な計画のもと成果を上げられるという利点もあります。二つ目は進路指導があります。中学1年次からキャリア教育の充実が図れます。将来の生き方、あり方、職業観を指導することにより各自の進路に必要な大学等、目標を明確にすることができます。私は、中1の入学時から6年間の進路指導にカルテ方式を導入しました。従来は担任中心の進路指導に頼ることなく、進路指導センターで科学的、客観的に生徒を指導するようにして成果を上げることができました。

これも中高一貫校の利点だと思います。このように、生徒の進路実現に向けた指導に中高一貫校のメリットがあります。また、生徒指導においても大きな成果が期待できます。中学は「しつけ重視」高校は「教科重視」になる傾向の教員の指導を発達段階に応じて学校全体で指導できることです。特に中3と高1の接続の難しい時期を丁寧に指導できます。さらに、中学生時代に部活動、学校行事等とおして高校生の実力を近くで体感ができることは、中高一貫校の最も大きなメリットとって良いでしょう。

プロフィール／岩手県大船渡市出身。岩手県立一関第一高校卒業、東京教育大学体育学部武道学科卒業。教育界に入り、東京都立駒場高校、小石川高校教諭を経て深川高校教頭、墨田川高校校長などを歴任。二松学舎大学特任教授、私立埼玉栄中学高等学校校長などを経て、2021年1月に本校特別教育顧問就任。これまでの主な役職として、東京都高体連会長、全国高体連副会長、文部科学省中央教育審議会委員（青少年スポーツ分科会・安全部会）、経済同友会教育アドバイザー、全日本柔道連盟国際委員（柔道6段）。東京都板橋区在住。世界の教育事情（ハワイ、欧米など）に明るい。

十代から国際感覚が身につく学び舎

東京海洋大学グローバル教育研究推進機構 教授
CHUO Academic Lecture 講師（5年目）

小松 俊明 先生



小 中学生の皆さん、私は東京にある国立大学で大学生が国際的な視野を身につけるための支援をしています。実際、若いうちに海外との交流やグローバルな社会問題を理解することで国際的な視野を身につけることは、皆さんの将来に大きな影響をもたらします。私は、これまで長いこと全国の中学や高校に訪問して国際理解教育の支援をしてきました。その中で「岩手県盛岡市には本気で国際交流をしている学校がある」ことを知り、自分の目で確かめるためにCHUO国際教育フォーラムに参加しました。その結果、「この学校で学ぶ生徒は将来、日本を支える国際人材に育つはずだ」と確信し、それ以来5年間、毎年盛岡に年10回程度通いつめて、盛岡中央高校及び附属中学校で特別授業を行っています。今では盛岡が第二の故郷と私は感じています。

高校・附属中学校で生徒たちと接するようになってから、私の盛岡人への印象は変わってきています。なぜなら、私が接する生徒たちは全国の中学生や高校生と比べても多くの国際交流を経験しているせいか自信に満ちており、自分の意見もしっかりと言えます。それは、多様化する社会の価値観や国際人としての物の見方を自然と受け入れていることが原因です。これは学校独自の国際的な学校文化の影響だと私は考えています。多感な十代の中高生が毎日を過ごす環境は人格形成においてとても大切です。盛岡に全国レベルで見ても優れた国際的な学校があることは、岩手県盛岡市やその周辺に住む皆さんにとってとても運がいいことです。進学成績がいい学校なら全国どこに行っても多数ありますが、「十代から国際感覚が身につく学び舎」は全国でもその数が限られています。皆さん、これからも私は盛岡に通いますので、もしご縁があったら是非盛岡中央高校・附属中学校でお会いしましょう。

盛岡人の印象は「控えめでおとなしいが、芯が強い人物が多い」というものでした。それが盛岡中央

自信と誇りを持って世界に羽ばたこう Go Out into the World and Spread Your Wings with Confidence and Pride.

盛岡中央高等学校

盛岡中央高等学校 附属中学校

入試広報課

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4-26-1 TEL.019-641-0458 FAX.019-641-5533
E-mail:nyushi@chuo-hs.jp

〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ 4-26-8 TEL.019-641-0505 FAX.019-641-5534
E-mail: info@chuo-jhs.jp

CHUOの最新情報はホームページから
<http://www.chuo-hs.jp>



盛岡中央高校

検索

CHUOの最新情報はホームページから
<http://www.chuo-jhs.jp>



盛岡中央高校附属中学校

検索